

平成21年度 事業報告書

学校法人 享栄学園

1. 法人の概要

享栄学園の沿革

大正	2年	6月	英習字簿記学会として名古屋市中区南呉服町に発足。
	4年	4月	坂本市長命名の「享栄学園」認可（KYOEI BUSINESS COLLEGESと称す）
	7年	10月	実業学校令による乙種認可校となり、享栄貿易学校と校名変更。
	10年	12月	甲種商業学校として認可される。
	14年	4月	実業学校令による甲種認可校（5年）に昇格、享栄商業学校に校名変更。
	14年	9月	名古屋市長徳区汐路町の現校舎位置に移転、鶴舞公園前に享栄商業タイピスト学校独立。
昭和	19年	3月	財団法人享栄学園を設立、享栄女子商業学校に校名変更。
	23年	4月	学制改革により享栄商業高等学校、享栄中学校として発足。
	26年	3月	学校法人享栄学園となる。
	29年	4月	享栄幼稚園設立。
	37年	4月	享栄商業高等学校に工業課程を開設。
	38年	4月	鈴鹿高等学校を三重県鈴鹿市に開校。（普通科・商業科）
	40年	3月	享栄中学校廃校。
	41年	4月	鈴鹿短期大学を三重県鈴鹿市に開校。（家政学科）
	42年	10月	享栄商業高等学校、校名を享栄高等学校と変更。
	43年	4月	享栄高等学校に普通科開設。
	44年	2月	鈴鹿短期大学に家政第3部が認可。
	45年	1月	鈴鹿高等学校に定時制設置。
	51年	4月	享栄商業タイピスト学校を享栄タイピスト専門学校に校名変更。（専門課程・高等課程・一般課程設置）
	54年	9月	鈴鹿高等学校の定時制廃止。
	58年	4月	享栄高等学校栄徳分校を愛知県長久手町に開校。（普通科）
	59年	2月	鈴鹿短期大学に商経学科が認可。
	60年	4月	享栄高等学校栄徳分校が独立、栄徳高等学校として開校。（普通科）
	60年	4月	享栄タイピスト専門学校を専門学校享栄ビジネスカレッジと校名変更。
	61年	4月	鈴鹿中学校を三重県鈴鹿市に開校。
	平成	1年	3月
2年		3月	専門学校享栄ビジネスカレッジ商業実務一般課程廃止。
3年		4月	鈴鹿短期大学家政学科の名称を生活学科に変更。
5年		12月	鈴鹿国際大学国際学部国際関係学科設置認可。
8年		5月	鈴鹿短期大学商経学科廃止認可。
9年		12月	鈴鹿国際大学大学院国際学研究科及び国際学部国際文化学科認可。
10年		4月	鈴鹿短期大学、校名を鈴鹿国際大学短期大学部と変更認可。
12年		10月	鈴鹿国際大学国際学部観光学科設置認可。
13年		8月	鈴鹿国際大学国際学部英米語学科設置認可。
16年		4月	鈴鹿国際大学国際学部国際関係学科の名称を国際学科に変更。
17年		3月	享栄高等学校通信制課程廃止認可。
17年		3月	専門学校享栄ビジネスカレッジ商業実務高等課程廃止認可。
18年		4月	鈴鹿国際大学短期大学部、校名を鈴鹿短期大学と変更。
20年		4月	鈴鹿国際大学国際学部の名称を国際人間科学部に変更。

設置する学校・学部・学科等及び学生数状況

(平成21年5月1日現在)

設置する学校	開校年度	学部・学科等	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
鈴鹿国際大学	H10	大学院 国際学研究科	10	20	25	
	H6	国際人間科学部 国際学科	140	625	451	
	H13	観光学科	60	275	195	
	H14	英米語学科	0	40	18	
鈴鹿短期大学	S41	生活学科	150	300	224	
享栄高等学校	S23	全日制課程	520	1,560	1,589	
鈴鹿高等学校	S38	全日制課程	640	1,920	1,328	
栄徳高等学校	S60	全日制課程	320	960	1,024	
鈴鹿中学校	S61		140	420	430	
享栄幼稚園	S29		69	209	257	
専門学校 享栄ビジネスカレッジ	S51	商業実務専門課程	0	0	0	平成10年 募集停止

役員概要

(平成21年5月1日現在)

定員数 理事6～10名、監事2名

区分	氏名
理事長	堀 敬史
常務理事	近藤 新二
理事	佐治 晴夫
理事	内田 憲男
理事	堀 敬紀
理事	藤田 敏夫
理事	近藤 信行
理事	古川 敏治
監事	木宮 和彦
監事	本多 清治

評議員概要

(平成21年5月1日現在)

定員数 評議員 13～21名

氏名
堀 敬史
堀 敬紀
伊東 広悦
中野 潤三
杉山 元浩
杉山 栄子
山下 久夫
近藤 信行
植木 広次
藤田 敏夫
西坂 幹
塩地 隆三
丹羽 良治
長谷川 信孝
山中 保一
柴垣 旭延
神藤 晴信

教職員の概要

(平成21年5月1日現在)

部門	教員		職員		本務計	兼務計	合計
	本務	兼務	本務	兼務			
鈴鹿国際大学	37	45	27	23	64	68	132
鈴鹿短期大学	26	26	12	4	38	30	68
享栄高等学校	80	36	12	1	92	37	129
鈴鹿高等学校	80	50	7	11	87	61	148
栄徳高等学校	58	11	9	1	67	12	79
鈴鹿中学校	24	16	3	6	27	22	49
享栄幼稚園	12	6	1	1	13	7	20
享栄ビジネスカレッジ	0	0	0	0	0	0	0
学園本部	0	0	6	1	6	1	7
計	317	190	77	48	394	238	632

2. 事業の概要

事業の概要

享栄学園は創立者堀栄二氏の「誠実で信頼できる人に」の建学の精神を基に、実社会に役立つ教育を実践している。

(1) 鈴鹿国際大学

国が推進する留学生交流支援制度に本学が取り組んでいる海外短期留学支援制度の StudyOverseasProgram (SOP) プログラムが採択された。本学が目指す国際社会と地域社会の発展に寄与出来るグローバルな視野を養い、真の国際人を育成することができた。

(2) 鈴鹿短期大学

前年度に引き続き、新学科構想（生活コミュニケーションをキーワードとする学科・カリキュラムの編成）の実現に向けた活動を行った。具体的には、生活コミュニケーション系講座の充実、公開講座の充実および研究・教育活動の地域への浸透活動である。この活動を通じて、キャリア開発、キャリア教育を中心に地域にない教育システムが整備され、特色化が図られた。

(3) 享栄高等学校

地域に評価される学校を目指しており、その一環として土曜セミナーを年 5 回開催して。毎月 10 日、20 日、30 日に生徒会が通学路の交通指導にあたっている。部活動も地域の清掃を行い美化に努めている。またタウンサークルを開催し地域の方との情報交換を行い交流の場を広げている。

部活動では、ボクシング部がインターハイにおいて 2 名が準優勝と第 3 位になり、さらに国民体育大会において 1 名が第 3 位に入賞した。

(4) 鈴鹿高等学校

第 2 次施設耐震化整備事業として新校舎建設工事が、平成 22 年 12 月 15 日に竣工し、3 学期より新校舎にて授業を開始した。

授業公開や教員研修・シラバスの整備など、授業内容の充実に向けた取り組みを推進した。またクラブ活動では、東海大会及び全国大会へ、延べ 18 クラブが出場した。

(5) 栄徳高等学校

学校創立から 26 年が過ぎ、校舎内外の老朽化が一段と激しくなっている中、本年度は校舎の外壁塗装工事を行った。部活動では馬術部が「第 20 回全国高等学校馬術選手権大会」（女子個人の部）優勝、ゴルフ部が「USA ハワイジャパンジュニアカップ」優勝（男子日本チームメンバー）全国大会出場、陸上競技部が「東海高校新人選手権大会」（男子 200M 大会新記録、100M）優勝した。

(6) 鈴鹿中学校

近年少子化傾向のなかでも、志願者が増加し、生徒数は 6 年制として総数 800 名を超えた。

平成 21 年度の体育祭（鈴青祭）は外部競技場を使用して実施した。その他海外研修旅行を国内に変更し、代わって計画したカナダ語学研修は、30 名を超える参加者（希望者）があり、次年度はオーストラリアに行き先を変更予定。

事業の概要

(7) 享栄幼稚園

家族が参加しての体操、七夕、林間お泊り保育（阿智村）、運動会、芋焼き、作品展、音楽会、雪遊び、生活発表会そしてお別れの会等を実施した。

(8) 学園本部

鈴鹿国際大学学則の一部変更（評価方法の追加）について（施行日 平成 22 年 4 月 1 日）

鈴鹿短期大学学則の一部変更（教育課程及び学納金）について（施行日 平成 22 年 4 月 1 日）

鈴鹿高等学校学則の一部変更（教育課程）を行った。（施行日 平成 22 年 4 月 1 日）

鈴鹿高等学校学則の一部変更（学納金）を行った。（施行日 平成 22 年 4 月 1 日）

栄徳高等学校学則の一部変更（教育課程）を行った。（施行日 平成 22 年 4 月 1 日）

鈴鹿中学校学則の一部変更（学納金）を行った。（施行日 平成 22 年 4 月 1 日）

専門学校享栄ビジネスカレッジを廃止した（認可日 平成 22 年 3 月 31 日）

学園本部の移転とそれに伴う寄附行為の変更を行った（施行日 平成 22 年 4 月 1 日）

学園新任教員研修会を実施した。（8 月 3 日）

学園事務研修会を実施した。（7 月 28 日）

学園夏期研修会を実施した。（8 月 24 日）

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

資金収支計算書 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日		消費収支計算書 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	2,658,752	学生生徒等納付金	2,658,752
手数料収入	138,567	手数料	138,567
寄付金収入	21,663	寄付金	25,751
補助金収入	2,128,239	補助金収入	2,128,239
資産運用収入	64,734	資産運用収入	64,734
資産売却収入	581,317	資産売却差額	20,449
事業収入	20,727	事業収入	20,727
雑収入	287,105	雑収入	287,293
借入金等収入	1,616,158	帰属収入合計	5,344,511
前受金収入	561,784	基本金組入額	△ 415,597
その他の収入	1,287,879	消費収入の部合計	4,928,914
資金収入調整勘定	△ 1,372,995	人件費支出	3,973,476
前年度繰越支払資金	508,507	教育研究経費	1,478,750
収入の部合計	8,502,436	管理経費	410,250
人件費支出	4,028,310	借入金等利息	50,385
教育研究経費支出	1,052,842	資産処分差額	610,779
管理経費支出	378,662	徴収不能引当金繰入額	93,021
借入金等利息支出	50,385	徴収不能額	372
借入金等返済支出	1,101,023	消費支出の部合計	6,617,032
施設関係支出	1,274,053	消費収支差額	△ 1,688,119
設備関係支出	104,945	当年度繰越消費収支超過額	△ 1,688,119
資産運用支出	97,620	前年度繰越消費収支超過額	△ 6,100,697
その他の支出	395,500	基本金取崩額	70,738
資金支出調整勘定	△ 935,567	翌年度繰越消費収支超過額	△ 7,718,078
次年度繰越支払資金	954,664		
支出の部合計	8,502,436		

貸借対照表 平成22年3月31日現在			
科目	金額	科目	金額
土地	3,517,201	借入金（注）	4,813,117
建物	8,115,800	退職給与引当金	518,135
構築物	757,577	前受金	561,784
教育研究用機器備品	247,944	その他負債	877,940
その他の機器備品	14,135	負債の部合計	6,770,976
図書	548,430	基本金	19,126,778
引当特定資産	1,055,093	消費収支差額の部合計	△ 7,718,078
その他固定資産	219,805		
現金預金	954,663		
未収入金（注）	2,515,156		
その他流動資産	233,872		
資産の部合計	18,179,676	負債の部、基本金及び消費収支差額の部合計	18,179,676

(注) 愛知県授業料軽減貸付金等(2,143,452千円)償還に要する財源に愛知県から全額補填を受ける